

# マクロ経済学 期末試験

2008年1月29日実施

## 問題1

IS-LM分析について説明せよ。その際、「財市場」「貨幣市場」「財政・金融政策」の各語を使うこと。

## 問題2

「流動性のわな」を説明せよ。

## 問題3 (10点)

所得	200	300	400	500	600	700
消費	110	150	190	230	270	310

消費が所得の1次関数で表されるとすると、どのような式になるか。所得をY、消費をCとする。

$$C=30+0.4Y$$

$$C=60+0.4Y$$

$$C=30+0.6Y$$

$$C=60+0.6Y$$

## 問題4

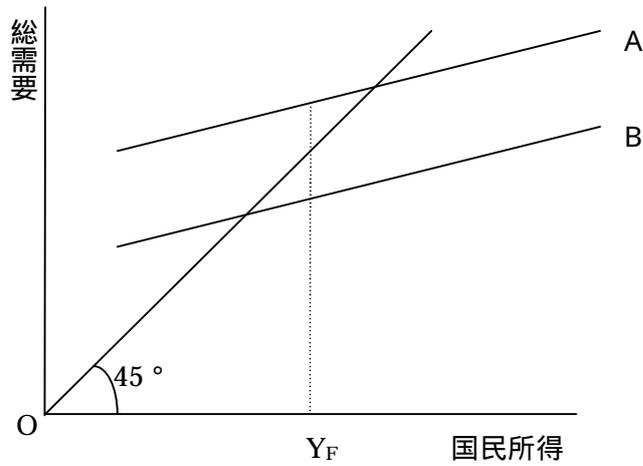
表は、ある企業の投資プロジェクト案である。投資家はケインズの投資決定論に基づき、これらのプロジェクト案を実施するかどうか判断する場合、次の記述のうち妥当なものはどれか。ただし、預金、貸出の利率はともに10%とする。

プロジェクト案	設備の利用期間	設備の費用	毎期の予想収益
A案	2年	1,200億円	630億円
B案	3年	3,200億円	2100億円
C案	2年	8,500億円	4000億円

- 1 A案は実施し、B案およびC案は実施しない。
- 2 A案およびB案は実施し、C案は実施しない。
- 3 B案は実施し、A案およびC案は実施しない。
- 4 B案およびC案は実施し、A案は実施しない。
- 5 C案は実施し、A案およびB案は実施しない。

問題5 (10点)

総需要曲線A, Bと総供給曲線(45度線)が図のように示され,  $Y_F$ を完全雇用国民所得水準とすると, 次の記述のうち誤っているものはどれか。

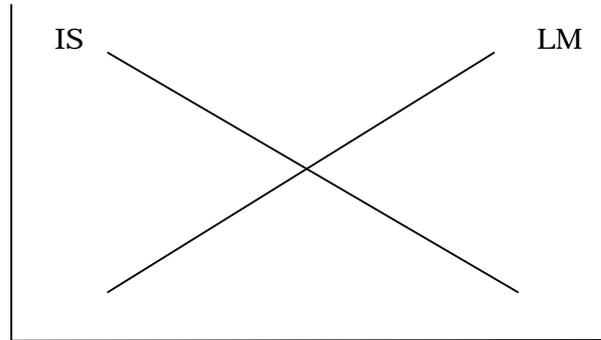


1. 総需要曲線がAのとき, 需要を満たすには, 完全雇用が達成される国民所得より多くの供給量が必要となる。
2. 総需要曲線がAのとき, 実質国民所得は長期的には増大しないが名目国民所得は増大し続けると考えられる。
3. 総需要曲線がBのとき, デフレ・ギャップが生じており, 失業が存在している。
4. 総需要曲線がBのとき, 公共投資を減らすなど, 緊縮的な財政政策をとる必要がある。
5. 総需要曲線がBのとき, 中央銀行は公定歩合を引き下げて金融緩和を行うと考えられる。

問題 6 ( 10 点 )

次の図に関する記述のうち、誤っているのはどれか。ただし、以下の記述において、M：貨幣供給量，L：貨幣需要量，S：貯蓄，I：投資，r：利子率，Y：国民所得，である。

選択肢のうち間違っているものを一つ選べ。



- の領域では  $I < S$  が成り立っている。
- の領域では  $L < M$  が成り立っている。
- の領域では  $S > I$  が成り立っている。
- の領域では  $L > M$  が成り立っている。

問題 7 ( 10 点 )

マクロ経済における，IS-LM 曲線が，

$$\text{IS 曲線： } Y = 200 - 10r + G$$

$$\text{LM 曲線： } Y = 200 + 30r + 0.5M$$

Y：国民所得，r：利子率（%）

G：政府支出，M：マネーサプライ

で示されるとする。今，政府支出が 50 増加し，マネーサプライが不変であったとき，利子率は何%上昇するか。ただし，物価水準は一定である。

- 0.75%
- 1%
- 1.25%
- 1.5%

### 問題 8 (10 点)

マクロ経済モデルが次のように与えられるとき以下の設問に答えなさい。

$$\text{消費関数 } C = 20 + 0.8Y$$

$$\text{投資関数 } I = 140 - 16i$$

$$\text{貨幣需要関数 } L = 0.2Y + 300 - 8i$$

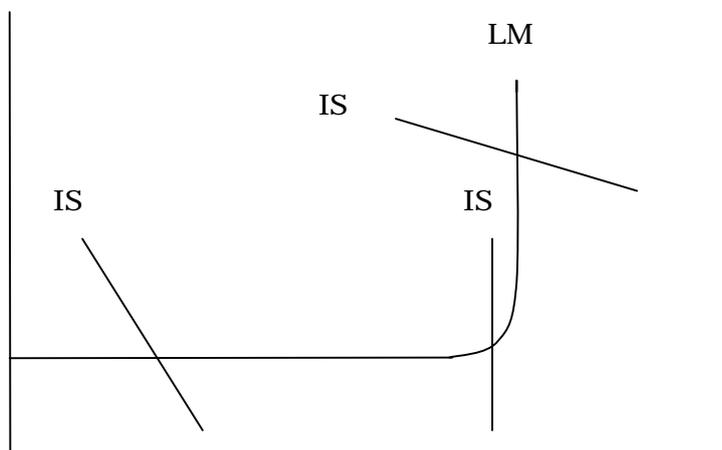
$$\text{貨幣供給量 } M = 400$$

- (1) IS - LMより、均衡国民所得  $Y_0$  を求めなさい。
- (2) 同様に、均衡利子率  $i_0$  を求めなさい。

【国家 種・平成 7 年度】

### 問題 9

下図は、IS-LM 分析を示したものであるが、この図に関する下の記述のうち、誤っているものはどれか。



- 1 金融政策としては、貨幣供給量を増加させると LM 曲線が、右方に移動する。利子率と国民所得の均衡状態は IS 曲線の形状によって変わってくる。
- 2 財政政策としては、政府支出を減少させると IS 曲線、IS 曲線および IS 曲線が左方に移動する。
- 3 IS 曲線と LM 曲線の関係は、流動性のわなの状態を示しており、金融政策が所得水準の上昇に有効でない状況を示している。
- 4 IS 曲線と LM 曲線の関係は、利子率がかなり低い水準のときに貨幣需要が増大し利子率に関して無限大となり、貨幣供給量が増加しても均衡利子率は低下しなくなる状況を示している。
- 5 IS 曲線と LM 曲線の関係は、利子率の変化が貨幣需要に影響を及ぼさないときには、政府支出を増加させても、利子率の上昇を引き起こすだけで国民所得を増加させる事は出来ない状況を示している。

### 問題 10 (10 点、無記入は 0 点)

この授業に関する感想を書いてください。